

JA兵庫南の自己改革への取り組み、進捗状況を報告します。



第4回担い手農家懇談会での 意見交換についてご報告(抜粋)

JA兵庫南は組合員との対話を深めJA自己改革に反映させるため、担い手農家(一定規模の農地を持つ農業者や集落単位での営農組合など)の皆さまと意見交換会を開催しました。

その内容を一部抜粋となりますが、ご報告いたします。

開催概要

会議日程: 2月21日(野菜の部)・2月22日(水稲の部)・3月1日(ふぁ～みんSHOPの部)

参加者: 野菜・水稲関係認定農業者、作目部会代表者、営農組合代表者、ふぁ～みんSHOP代表者 計63名

JA出席者: 中村組合長、野村専務、田中常務、木下常務、藤原常勤監事、早瀬営農経済部長、大西総務部長、JA全農兵庫、営農経済センター長ほか

1. 農業者の所得増大

テーマ	出席者からのご意見	JAからの回答
ブランド力の強化について	いちじく部会の生産者が減少しており、現在10人である。良いものを作って良い値段で売りたいと頑張っている。前回のこの会でも提言したが、いちじくの箱には兵庫県産の表記しかない。横に「志方いちじく」の名前を入れていただきたい。パックを400gに変更したことに関して収益は出ているが、県内の他のJAでは、個別ブランド名を表記したり、500gパックを使ったりしている。	県内産のいちじくについては統一をはかっており、違う箱があるという認識はありませんでした。箱に「志方いちじく」の名前をいれることに関して、印刷が可能かどうか、高値で売れるかどうかも含めて検討させていただきます。(JA全農兵庫) 現在は出荷用箱のフタに「志方いちじく」のシールを貼付していますが、印刷する方向で検討しており、今年の夏の出荷から使っていただくよう計画しています。
直売所の職員教育について	ふぁ～みんSHOP運営協議会(出荷者全体での協議会)のときにも話をしたが、SHOP職員の接客対応について挨拶ができていない、愛想もない。支店金融の窓口の方はきちんと挨拶ができていますがSHOPについては、気持ちの良い状態ではないので職員教育を徹底いただきたい。	運営協議会後の2月の店長会にて、そのようなご意見があったと報告させていただきました。職員がやりがいを持って働ける職場風土とすることで活気のある店づくりができると考えています。そしてお客様に気持ち良くご利用いただけるよう、職場環境の改善に取り組みます。
生産コスト削減について	肥料袋、マルチシートの処分について現在業者に委託しているが、今年から産業廃棄物となるため、廃棄物毎に業者と契約を結ぶ必要がある。農薬瓶の処理も厳しくなるため、JAが中間に入って対応していただけないのか。	稲美町ではハウス用のビニールやマルチシートを農家負担ではありますがJAで集め廃棄処理しています。今後、他地区にも広げていきたいと思えます。肥料の空き袋や野菜育苗のトレイの引き取りも含めて検討します。農薬の容器についても有料ですが、廃棄農薬回収時に引取しています。 各市町村もゴミ減量活動を行っており、JAとしても具体的な方法を検討していきます。
	低コスト肥料である「オール14」をスイートコーン栽培で去年から使っているが従前品と比較しても遜色はない。若干使用量を増やしているレタスでも問題ない。一方、キャベツではこれから検証が必要。大量に使用する農家にとっては大きなコスト削減となる。いろいろな作物における効果をJAで研究し、農家にフィードバックいただきたい。	JAとしても生産者にご協力をいただき、またJA全農兵庫とも連携しデータ収集などによる研究を進めていきます。そしてより効率的なコスト削減となるよう農家生産者に情報提供を行います。

テーマ	出席者からのご意見	JAからの回答
所得アップについて	事前の契約により出荷価格の決まっているキャベツの契約栽培について、現在単価キロ60円を最低でもキロ80円にさせていただきたい。60円では今の農業は続かない。10aで経費が27～8万円かかっている。手取りは現在1玉30円。個人経営でこの状況ではもたない。難しい問題であると理解しているが、全農全国本部と価格等交渉いただきたい。	野菜の価格については数年前からの高値の反動がきており、安い時期・高い時期が顕著に出ています。秋冬作については台風の影響が大きく、国内産の安定出荷にも影響が出ました。またキャベツの輸入量が単月で例年の6倍、年間を通して2.5倍以上となっており、国内産も収量減の不安の中、暖冬の気候で追いついてきており、ダブっている状況となっています。少しでも手取りが増えるように全農全国本部にもキャベツの秋冬作については兵庫、愛知、千葉と全国でリレーをしながら国産を補い、単価を上げられないかと交渉中です。
	水稲について農家の要望により多品種栽培しており、業務用に「にこまる」という品種のお米を作っているが、他の生産性・収益性のいい業務米の情報を知りたい。	業務米として早生品種の「とよめき」、「ちほみのり」、他に「やまだわら」、「ほしじるし」などがあり現在試験中です。販売価格は一般より安いですが多収性品種のため収量を確保することで、10a当りの収入を上げていただく品種となっています。種子も準備できますのでJAに確認をお願いします。

2. 農業生産の拡大

テーマ	出席者からのご意見	JAからの回答
水稲玄米の検査について	米の検査は出荷米だけを検査している。農家が持ち帰る米についても検査して欲しい。	検査のみというのも制度としてあるので、営農経済センターにご相談ください。
野菜出荷時期について	キャベツ、ブロッコリーについて育苗センターで育苗してもらうのはいいが、時期が集中して物がダブついてしまい、結局廃棄処分している。販売の拡大を考慮した育苗調整をしていただきたい。これから4月～6月と品不足が考えられる。昼から物が無いのでお店として機能していない。何か手を打っていただきたい。	店長と生産者の方と一緒にバランス等考えていきたいと思えます。
獣害対策について	獣害に関して、稲美町ではキャベツ・スイートコーンはカラス、鴨、ヒヨドリ、キツネの被害が多いです。駆除したいが鳥獣保護法で行政は対処してくれない。動物を特定せずに獣害の被害状況のマップを作って欲しい。また、農家側にも努力が求められるが、経済的で効果的な対策方法を指導いただきたい。	獣害の被害状況は把握しており、行政サイドと連携しJA兵庫南でも積極的な対応を検討していきます。

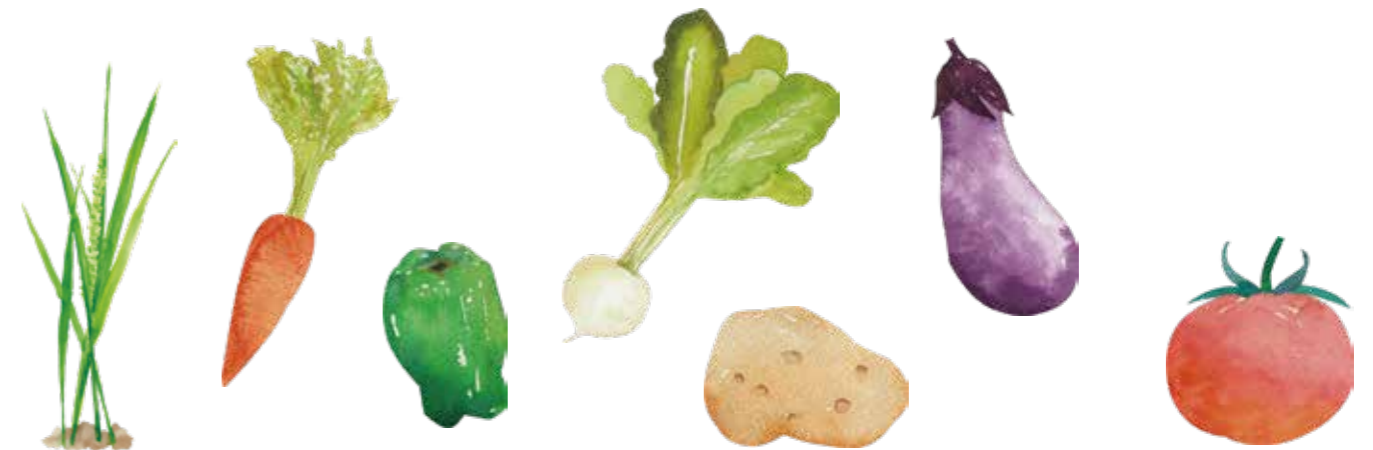
3. 地域の活性化

テーマ	出席者からのご意見	JAからの回答
女性の経営参画について	女性の社会進出が著しいが、JAの活動に対しての女性からの提案要望に対する活動への反映が少ないように感じる。もっと女性会の意見も吸い上げていただきたい。	女性委員会ならびに女性会本部役員と常勤役員との意見交換会を実施しており、女性のご意見をいただいています。これからも、女性の貴重なご意見を参考にしていきたいと考えています。

4. その他

テーマ	出席者からのご意見	JAからの回答
農作業にかかる事故について	トラクターについて、事故が多いので取り締まりを厳しくするとの情報があるが、JAで情報は入っているか。	JAには情報は入っていませんが、農業用機械での事故が多くなっている事実がありますので安全運転でお願いしたいと思います。また過積載にも十分注意してください。継続的に交通安全啓蒙を実施します。

テーマ	出席者からのご意見	JAからの回答
担い手農家、部会活動について	人手不足なので農作業を手伝ってくれる人を探している。特に収穫時の箱詰め、パック詰め作業が大変である。またカラス被害も多いのでパイプを立ててネットを張っているが高額な出費となり、パイプを立てる作業自体も大変である。	JA兵庫南は昨年より障がい者施設への職の斡旋、農家の人手不足解消を主な目的として農福連携事業に取り組んでいます。そのような作業ができるかどうか関係事業所に確認します。また地域農業を実践しながら応援していただく「援農ボランティア」を募り、野菜の植付けや収穫・出荷作業等を行っていただいています。より多くの人にお手伝いいただけるようPR活動を行います。
	いろいろな生産部会のメンバーが減ってきており活動が停滞している。そんな中ではあるが作付け面積を増やしていきたいので、先日ふぁ～みんSHOPの出荷者でスイートコーンに興味のある方や部会に興味のある方の募集をかけてもらうことになった。作っていない方に推進する機会がないので、部会の組織再編や、品種横断的な部会を作ることはいかぬか。その中で違う品目を推進し、産地を増やしていきたい。	作付け面積拡大に向けてのご提案ありがとうございます。部会再編については、各部会の意向をお聞きしながら検討していきます。
	外国人労働者の受入による人手不足解消は考えているのか。	外国人労働者について当JAでは現在受入の意向はありません。理由としては雇用する以上、住居の問題や生活のケアや外国語がわかる人材の確保等が十分に行えないなど課題があるためです。今後他のJAの取組み事例を参考に研究を行います。労働力については、当面は援農ボランティアや農福連携で対応していきたいと思えます。



第4回担い手農家懇談会の模様



2月21日
(野菜の部)

野菜関係農家11人の方が参加。重点5品目野菜の作付面積の拡大状況などについて報告しました。

農家の皆さまからは、害獣対策や出荷資材等のコスト削減、ブランド力の強化、生産者の所得増大などについての意見をいただきました。

水稲関係農家41人の方が参加。肥料農薬の大型規格品によるコスト削減状況などについて報告しました。
農家の皆さまからは、カントリー受け入れ時期の見直し、生産性収益性の良い業務米の情報、後継者・高齢化対策についての意見をいただきました。

2月22日
(水稲の部)



直売所関係農家11人の方が参加。直売所売上高実績などについて報告しました。
農家の皆さまからは、直売所出荷時期が集中する問題や営農渉外の研究発表、ふぁ～みんSHOPの接客対応についての意見をいただきました。



3月1日
(ふぁ～みんSHOPの部)

担い手農家懇談会にご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。
皆さまのご意見をもとに役職員一丸となってJA自己改革に取り組みます。



～農業の活性化と豊かな地域社会をめざし、創造的自己改革への挑戦!～
「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標に掲げ、取り組みます。